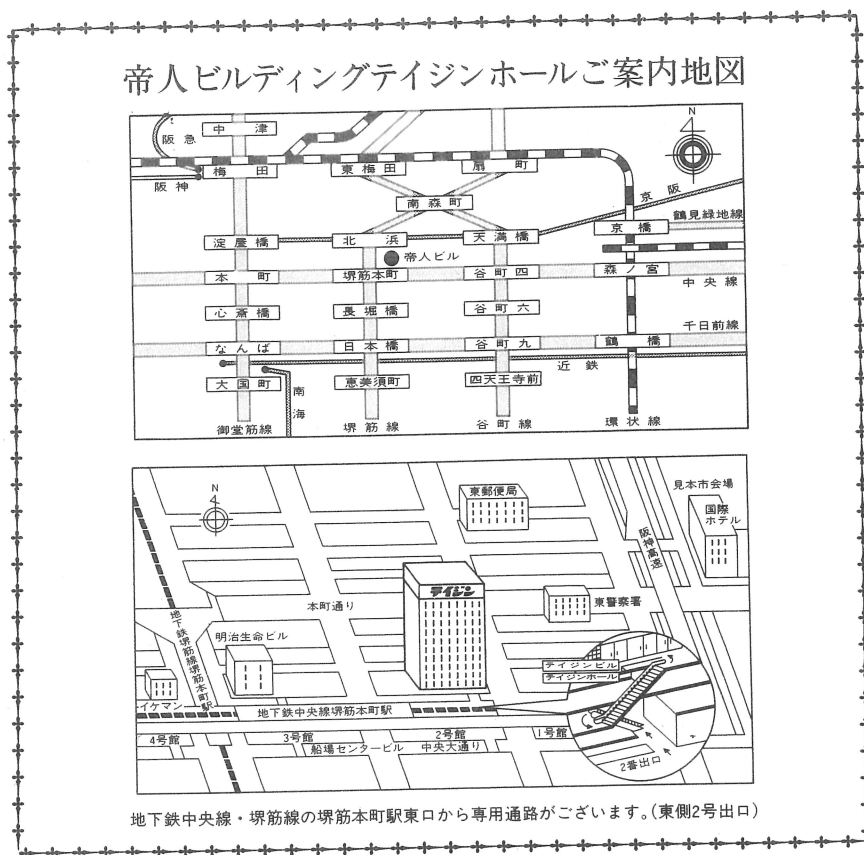


第25回 近畿川崎病研究会

日 時：平成13年3月3日(土)
13:30~18:40

会 場：テイジンホール
大阪市中央区南本町1丁目6番7号
TEL 06-6268-3131~3132



共 催 近畿川崎病研究会
帝 人 株 式 会 社

一近畿川崎病研究会一

第25回近畿川崎病研究会会長

佐野 哲也

運営委員長

横山 達郎

運営委員

上谷 良行	上村 茂	越後 茂之	荻野廣太郎
奥野 昌彦	尾内善四郎	片山 博視	北村惣一郎
清沢 伸幸	米田 正始	桜井 隆	佐野 哲也
篠原 徹	四宮 敬介	清水 達雄	杉本 久和
鈴木 淳子	津田 悦子	鄭 輝男	寺口 正之
土井 拓	富田 安彦	内藤 泰顯	中川 雅生
中島 徹	西岡 研哉	服部 益治	馬場 國藏
濱岡 建城	福田 和由	藤原 久義	古庄 卷史
槇野征一郎	松下 享	松田 暉	松村 正彦
三谷 義英	村上 洋介	横山 達郎	吉林 宗夫

顧問

神谷 哲郎	川崎 富作	川島 康生	田村 時緒
濱島 義博	森 忠三		

事務局

〒100-8585 東京都千代田区内幸町 2-1-1

帝人(株) 医薬医療事業本部内

TEL 03-3506-4868

ー参加者へのお知らせとお願いー

1. 参加者へ

- (1) 研究会開始時間は午後1時30分です。
- (2) 研究会参加費は1,000円です。なお、本会に未入会の方は入会の程お願いいたします(年会費は3,000円です)。
- (3) 本研究会は、日本小児科学会認定医研修単位として3単位となっております。

2. 演題発表者へ

- (1) 本研究会では討論を十分に行いたいと思いますので、口演時間は一般演題7分、シンポジウム12分をお願いいたします。
- (2) スライドは原則として一般演題10枚、シンポジウム20枚程度でお願いいたします。
また、35m/m版用、1面のみの使用とします。
- (3) スライドは会場入場の際「スライド受付」にご提出下さい。

3. 口演者へのお願い

口演内容は、Progress in Medicine 7月号(ライフサイエンス・メディカ)に掲載される予定ですので、次の要領でまとめて下さい。

執筆要項：400字詰原稿用紙にて、図表は別で12枚以内にまとめて下さい。また、200字以内の英文抄録を付して下さい。

原稿メ切：平成13年4月30日(後日、ライフサイエンス・メディカよりあらためてご連絡いたします。)

問合せ先：(株) ライフサイエンス・メディカ 日村昭仁

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山

TEL 03-3407-8963

プログラム

13:30 ~ 14:20

【心病変と病態】

座長 上村 茂 (和歌山県立医科大学)

1. 川崎病後遠隔期にみられた新生瘤における血管内エコー所見

国立循環器病センター 小児科

津田悦子、藤田秀樹、石川雄一、黒寄健一、小野安生、
越後茂之

国立循環器病センター 放射線科

木村晃二

2. 冠動脈バイパス手術を施行した川崎病既往の dipyridamole 負荷

levovist TM によるコントラストエコー所見の 1 例

近畿大学医学部 心臓小児科

福田 毅、田里 寛、三宅俊治、篠原 徹

近畿大学医学部 心臓外科

井上剛裕、大滝正巳、奥 秀喬

3. ガンマグロブリン療法の治療開始病日と心後遺症との関係

京都第二赤十字病院 小児科

伊藤陽里、清沢伸幸

関西医科大学附属洛西ニュータウン病院 小児科

萩野廣太郎

4. Dynamic Coronary MR Angiography の冠動脈描出にたいする検討

東京通信病院 放射線科

佐藤克彦、岩元香保里、島田菜保子、鈴木丈夫、是永建雄

東京通信病院 同小児科

鈴木淳子

5. 免疫グロブリンは、Fc 部分を介して、

ラット自己免疫性巨細胞型心筋炎を改善する

京都大学大学院 循環病態学

岸本千晴、塩路圭介、中山雪絵、篠山重威

14:20 ~ 15:10

【難治症例】

座長 津田悦子 (国立循環器病センター)

6. 尿中 β 2MG高値を認めた γ -グロブリン不応の川崎病の一例

箕面市立病院 小児科

岩城 大、山本威久、藤川泰弘、藤井史敏、窪田拓生、
下辻常介

7. 当科で経験したガンマグロブリン大量療法不応例の検討

市立伊丹病院 小児科

窪田恵子、宮脇久子、薮田玲子、三木和典、有田耕司

8. ガンマグロブリン投与により速やかに解熱したが、冠動脈障害を生じた2例

和歌山県立医科大学 小児科

武内 崇、井上徳浩、鈴木啓之、上村 茂、吉川徳茂
泉大津市立病院 小児科
宮下律子

9. 発症5年後に瘤の再拡大を認めた川崎病の一例

大阪医科大学 小児科

森 保彦、片山博視、奥村謙一、玉井 浩
清恵会病院 小児科
清水俊男
生駒総合病院 小児科
清水達雄

10. 小児の冠動脈径正常値について

市立豊中病院 小児科

黒飛俊二、川上展弘、永井利三郎
大阪厚生年金病院 小児科
佐野哲也

15:10～15:50

【治療と管理】 座長 荻野廣太郎（関西医科大学附属洛西ニュータウン病院）

11. 川崎病ガンマグロブリン治療のプロトコール作成に向けて
—我々の治療法とその問題点および様々の選択肢について—

神戸市立中央市民病院 小児科

芳本 潤、富田安彦、山川 勝、齋藤 潤、篠田 現、
前田晴子、箕浦貴則、清野純子、久保田優、西尾利一

西神戸医療センター 小児科

深谷 隆、馬場國藏

12. 急性期川崎病に対する γ -グロブリン超大量療法の不応リスクの予測

川崎病治療研究会

佐野哲也、永井利三郎、牧 一郎、山本威久、藪田玲子、
三木和典、松崎香士、松下 享、小野寺隆、黒飛俊二、
藤崎弘之、岩城 大、原 純一

13. 川崎病の新しい治療法—ウリナスタチン療法の当科での成績—

神鋼加古川病院 小児科

吉田 茂、今井恵介、篠 ひとみ、三舛信一郎

14. 経過観察終了が可能な川崎病既往児に対する管理への提言

近畿川崎病研究会管理に関する小委員会

篠原 徹、上村 茂、荻野廣太郎、清沢伸幸、横山達郎

15:50～16:15 【コーヒーブレイク】

16:15～16:20 【事務局報告】

16:20～17:10

特別講演

座長 佐野哲也（大阪厚生年金病院）

【重症虚血性心疾患に対する遺伝子治療】

大阪大学大学院機能制御外科学 澤 芳樹

17:10～18:40

シンポジウム

座長 濱岡建城（京都府立医科大学）

松村正彦（天理よろづ相談所病院）

【川崎病解明への新しい切り口】

発症原因：川崎病血管炎発症における溶連菌外毒素(SPE-C)と

抗血管平滑筋自己抗体の関与について

和歌山県立医科大学小児科

鈴木啓之

急性期病態：川崎病血管炎急性期における MMP-9 と HGF の関与

京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

坂田耕一

血管リモデリング：川崎病血管炎の免疫組織学的検討

東京通信病院小児科

鈴木淳子

感受性遺伝子：罹患同胞対法による川崎病感受性遺伝子のマッピング

東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター 尾内善広

血管生物学：川崎病に伴う冠動脈病変の血管生物学

—遠隔期内皮機能と瘤形成過程—

三重大学医学部小児科

三谷義英

にっぽんの血液製剤です。

献血であることの誇りと重責……



禁忌 (次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対しショックの既往歴のある患者

原則禁忌 (次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

冷蔵保存から室温保存になりました。

指定医薬品

血漿分画製剤

献血由来 静注用免疫グロブリン製剤



献血ベニロン-I

Kenketsu Venilon®-I

〈乾燥スルホ化人免疫グロブリン〉

生物学的製剤基準

薬価基準収載

本剤は、献血による貴重な血液を原料として製剤化されたものです。問診、感染症関連の検査等の安全対策を講じていますが、血液を原料としていること由来する感染症の伝播等の危険性を完全に排除することはできないことから、疾病の治療上の必要性を十分に検討の上、必要最小限の使用にとどめるようお願いいたします。〔使用上の注意〕の項参照) ●詳細については製品添付文書をご参照下さい。

総発売元・販売

製造元・販売

資料請求先：帝人(株)医薬医療事業本部学術情報部
(財)化学及血清療法研究所営業管理部

TEIJIN 帝人株式会社

医薬医療事業本部 〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1
資料請求先：帝人(株)医薬医療事業本部学術情報部



化血研 製薬化学及血清療法研究所

東京都大塚一丁目8番1号 F.060-0560
E. Phone0066-264-1211 / Fax0066-264-1345
資料請求先：(財)化学及血清療法研究所営業管理部

VE16-9911 作成年月1999年11月



気道潤滑去痰剤

指定医薬品

薬価基準収載

ムコソルバン

シロップ
ドライシロップ

Mucosolvan®

〈塩酸アンブロキシール〉

- 詳細は添付文書をご参照ください。
- 使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。

【効能・効果】

- 下記疾患の去痰
急性気管支炎、気管支喘息

【用法・用量】

- 〈シロップ〉 通常、幼・小児に1日0.3mL/kg (塩酸アンブロキシールとして0.9mg/kg)を3回に分けて経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。
- 〈ドライシロップ〉 通常、幼・小児に1日0.06g/kg (塩酸アンブロキシールとして0.9mg/kg)を3回に分け、用時溶解して経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

■使用上の注意一抜粋一

1. 副作用

〈シロップ〉 承認時及びその後の4年次報告までの安全性評価対象例数1,654例中8例(0.5%)に10件の副作用が認められた。
報告された症状は下痢2件(0.12%)、嘔吐1件(0.06%)、腹痛1件(0.06%)等であり、副作用とされた臨床検査値の変動はGOT上昇1件(0.06%)、GPT上昇1件(0.06%)等であった。

2. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

本剤は小児用製剤である。
妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。

3. 小児等への投与

低出生体重児及び新生児に対する安全性は確立していない。

4. 適用上の注意

〈シロップ〉 調製時：抗生物質を含有するシロップ用細粒との混合により、外觀(色、にごり)変化の起こることがあるので、これらの薬剤との併用を必要とする場合には別々に投与すること。

■取扱い上の注意

〈シロップ〉 本剤は、低温下で添加物の結晶が析出することがあるので、保管に際しては注意すること。

TEIJIN 帝人株式会社

医薬医療事業本部 〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1
資料請求先：帝人(株)医薬医療事業本部学術情報部

Boehringer Ingelheim

提携

ベリンガー・インゲルハイム・インターナショナル社
インゲルハイム・アラブ・ドイツ

MUD302 (MD) 0007
作成年月 2000年8月